

「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果測定(2010年度～2022年度)

1. 目的

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果について分析を行う。

2. 調査方法

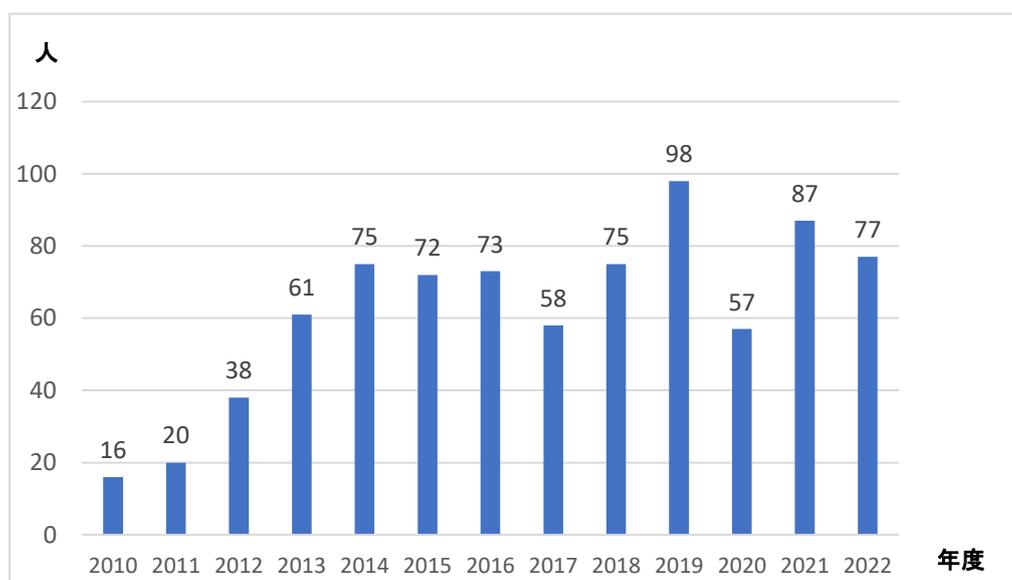
2-1 調査期間と調査対象

2010年度から2022年度に実施した「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の参加者に、プログラムの前後にアンケート調査を実施した。調査対象は、表 2-1 と図 2-1 に示すように、これまで「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加した人のうちプレ調査とポスト調査に回答をしたのは 807 人である。なお、アンケート調査項目の欠損値の多い人は省いている。

表 2-1 調査対象

年度	人数	%
2010	16	2.0
2011	20	2.5
2012	38	4.7
2013	61	7.6
2014	75	9.3
2015	72	8.9
2016	73	9.0
2017	58	7.2
2018	75	9.3
2019	98	12.1
2020	57	7.1
2021	87	10.8
2022	77	9.5
合計	807	100.0

図 2-1 調査対象



参加者の平均年齢は、表 2-2 に示すように、37.4±6.1 歳（最小年齢 20 歳，最大年齢 57 歳）であった。ただし、年齢が未記入であった 4 人を省いた。

表 2-2 参加者の平均年齢

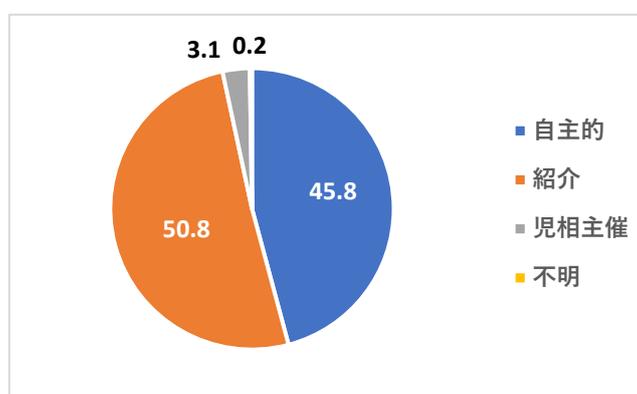
人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
803	20	57	37.4	6.1

参加経路別にみると，自主的参加は 370 人（45.8%），紹介は 410 人（50.8%），児童相談所主催/紹介は 25 人（3.1%），不明 2 人（0.2%）であった。

表 2-3 参加経路

参加経路	人数	%
自主的	370	45.8
紹介	410	50.8
児相主催	25	3.1
不明	2	0.2
合計	807	100.0

図 2-2 参加経路



2-2 調査内容

調査項目は，育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」，2「どちらかといえばはい」，3「どちらかといえばいいえ」，4「いいえ」の 4 件法），自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」，2「年に 1・2 回ある」，3「月に 1・2 回ある」，4「週に 1・2 回ある」，5「ほとんど毎日」の 5 件法）と，子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」，「いいえ」の 2 件法，ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）である。

3. 分析方法

3-1 基礎集計

すべての項目について，基礎集計を行った。

3-2 子育て状況：クロス集計

子育て状況については，プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために，クロス集計を行い，カイ 2 乗検定を行った。

3-3 育児意識と自己評価：Wilcoxon の符号付き順位検定によるプレとポストの比較

プレとポストの関連をみるために，育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。なお，この検定を用いたのは，各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果，正規分布を示していなかったからである。

3-4 育児意識と自己評価に関する下位尺度得点の算出

育児意識や自己評価に関する項目については、因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行い，下位尺度得点を算出した．なお，得点化するにあたっては，育児意識や自己評価について否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した．

なお，因子分析を行うにあたっては，「MY TREE ペアレント・プログラム」実施後に行ったポストアンケート調査のデータを使用した．

3-5 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

育児意識や自己評価の因子分析結果から得られた下位尺度得点について，「MY TREE ペアレント・プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った．

4. 調査結果

4-1 子育て状況の変化

表 4-1 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレアンケート調査		ポストアンケート調査		正確有意確率
		人数	%	人数	%	
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	636	80.0	667	83.9	0.001***
	いいえ	159	20.0	128	16.1	
	合計	795	100.0	795	100.0	
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	595	76.1	659	84.3	0.001***
	いいえ	187	23.9	123	15.7	
	合計	782	100.0	782	100.0	
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	636	81.4	682	87.3	0.001***
	いいえ	145	18.6	99	12.7	
	合計	781	100.0	781	100.0	
Ⅲ-4 子どもの健診（0歳、1歳、3歳児健診など）は受けている	はい	781	99.0	776	98.4	0.001***
	いいえ	8	1.0	13	1.6	
	合計	789	100.0	789	100.0	
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	326	41.7	361	46.2	0.001***
	今	48	6.1	36	4.6	
	いいえ	407	52.1	384	49.2	
	合計	781	100.0	781	100.0	
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：（過去のDVが）今も影響している	はい	233	78.5	211	71.0	0.001***
	いいえ	64	21.5	86	29.0	
	合計	297	100.0	297	100.0	
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	539	69.1	631	80.9	0.001***
	いいえ	241	30.9	149	19.1	
	合計	780	100.0	780	100.0	
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	873	72.5	613	77.6	0.001***
	いいえ	217	27.5	177	22.4	
	合計	790	100.0	790	100.0	
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	432	55.7	540	69.6	0.001***
	いいえ	344	44.3	236	30.4	
	合計	776	100.0	776	100.0	
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	535	69.8	570	74.3	0.001***
	いいえ	232	30.2	197	25.7	
	合計	767	100.0	767	100.0	

注) *** : $p < .001$

子育て状況については，表 4-1 に示すように，項目 4「子どもの健診は受けている」を除く 9 項目について肯定的な回答が有意に増えていた．なお，項目 4「子どもの健診は受けている」については，プ

プログラムの後の方が、子どもの健診を受けていると答えた人がやや少なくなっていた。なお、項目 5 の「DVを受けている。過去に受けたことがある」については、プログラムの後の方が、過去にDVを受けた方と答えた人が多くなっていた。しかし、項目 6 の「過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している」については、プログラムの後の方が「はい」と答えた人が有意に少なくなっていた。

4-2 育児意識と自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定)

4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-1)

育児意識については、すべての項目について、有意に順位が低くなっていた (ただし逆転項目 7, 10, 13 は高くなっていた)。

表 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定)

項目	プレ・ポスト	人数	平均値	標準偏差	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	805	2.04	1.017	2.00	-13.767 ^b	0.000
	ポスト	806	2.60	0.974	3.00		
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	806	2.30	0.995	2.00	-13.363 ^b	0.000
	ポスト	804	2.87	0.925	3.00		
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	806	2.10	0.979	2.00	-13.016 ^b	0.000
	ポスト	804	2.61	0.937	3.00		
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	802	2.54	1.051	2.00	-12.176 ^b	0.000
	ポスト	806	3.06	0.914	3.00		
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	803	2.96	1.010	3.00	-16.753 ^b	0.000
	ポスト	807	3.69	0.631	4.00		
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	803	3.04	1.007	3.00	-14.967 ^b	0.000
	ポスト	806	3.69	0.662	4.00		
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	804	1.78	0.965	1.00	-7.928 ^c	0.000
	ポスト	806	1.44	0.871	1.00		
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	798	2.86	1.044	3.00	-15.949 ^b	0.000
	ポスト	807	3.59	0.763	4.00		
I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力 (体罰) はやむを得ない	プレ	794	2.24	1.056	2.00	-17.317 ^b	0.000
	ポスト	805	3.18	0.955	4.00		
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	803	2.41	1.006	2.00	-12.542 ^c	0.000
	ポスト	803	1.92	0.843	2.00		
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	805	1.61	0.845	1.00	-9.530 ^b	0.000
	ポスト	805	1.92	0.865	2.00		
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	800	2.71	0.927	3.00	-3.996 ^b	0.000
	ポスト	806	2.83	0.860	3.00		
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	802	2.09	0.981	3.00	-6.693 ^c	0.000
	ポスト	805	1.87	0.920	2.00		

注 1) Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 負の順位に基づく, c. 正の順位に基づく

2) 1位: はい, 2位: どちらかといえばはい, 3位: どちらかといえばいいえ, 4位: いいえ

4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-2)

自己評価についてはすべての項目 (15 項目) について有意に順位が高くなっていた。

表 4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定)

項目	プレ・ ポスト	人数	平均値	標準偏差	中央値	Z	漸近有意確 率 (両側)
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思 うことがある	プレ	804	3.16	1.320	3.00	-10.340 ^b	0.000
	ポスト	803	2.70	1.169	3.00		
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思 うことがある	プレ	799	2.97	1.290	3.00	-8.802 ^b	0.000
	ポスト	806	2.64	1.160	2.00		
II-3 人はどうせ自分から離れていってしま うと思う	プレ	802	2.70	1.374	2.00	-7.645 ^b	0.000
	ポスト	801	2.37	1.203	2.00		
II-4 つらいときにも助けをもとめることが できない	プレ	799	2.87	1.425	3.00	-8.107 ^b	0.000
	ポスト	802	2.48	1.279	2.00		
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れな いときがある	プレ	803	3.35	1.372	3.00	-10.098 ^b	0.000
	ポスト	801	2.83	1.249	3.00		
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	801	3.92	1.093	4.00	-14.836 ^b	0.000
	ポスト	794	3.26	1.154	3.00		
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしま う	プレ	797	3.66	1.240	4.00	-14.010 ^b	0.000
	ポスト	790	3.00	1.207	3.00		
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	803	3.87	1.036	4.00	-15.659 ^b	0.000
	ポスト	793	3.16	1.085	3.00		
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋 外に閉めだす	プレ	805	1.52	0.865	1.00	-10.709 ^b	0.000
	ポスト	796	1.19	0.504	1.00		
II-10 罰として、こどもの気に入っているも のを壊す	プレ	806	1.62	0.905	1.00	-8.993 ^b	0.000
	ポスト	795	1.33	0.668	1.00		
II-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	804	4.17	1.055	5.00	-16.205 ^b	0.000
	ポスト	796	3.37	1.228	4.00		
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	804	3.15	1.378	3.00	-11.957 ^b	0.000
	ポスト	794	2.52	1.243	3.00		
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	803	2.59	1.228	3.00	-15.239 ^b	0.000
	ポスト	793	1.83	1.060	1.00		
II-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	805	1.56	1.037	1.00	-6.596 ^b	0.000
	ポスト	793	1.34	0.755	1.00		
II-15 子どもを足蹴りする	プレ	805	1.78	0.998	1.00	-10.892 ^b	0.000
	ポスト	793	1.39	0.751	1.00		

注

1) Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 正の順位に基づく

2) 1位: 全くない, 2位: 年に1, 2回ある, 3位: 月に1, 2回ある, 4位: 週に1, 2回ある, 5位: ほとんど毎日

4-3 因子分析

4-3-1 育児意識に関する因子分析（表 4-3-1）

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の育児意識に関する 13 項目の因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-1 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「体罰容認」，第 2 因子は「被害感情」，第 3 因子は「悲観的思考」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。ただし，I-7，10，13 は逆転項目である。

なお，下位尺度得点を算出するにあたっては，逆転項目の除く 10 項目については，1 位「はい」に 4 点，2 位「どちらかといえばはい」に 3 点，3 位「どちらかといえばいいえ」に 2 点，4 位「いいえ」に 1 点を付加し，得点が高いほど否定的な育児意識になるように調整を行った。

表 4-3-1 育児意識に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	体罰容認	被害感情	悲観的思考	
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	0.906	-0.004	-0.055	0.792
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	0.884	0.014	-0.053	0.764
I-8 言葉で1、2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	0.833	-0.034	0.018	0.684
I-9 子どもが危険な時、叱責の暴力(体罰)はやむを得ない	0.550	-0.014	0.093	0.334
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	-0.469	0.014	-0.010	0.218
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	0.334	0.291	0.074	0.299
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	-0.050	0.887	-0.053	0.729
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	-0.015	0.848	-0.033	0.691
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	0.043	0.731	0.069	0.602
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	-0.052	0.010	-0.636	0.421
I-13 困った時は、誰かに相談できる	0.008	0.069	-0.510	0.237
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	-0.090	0.107	0.504	0.281
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	0.070	-0.031	0.444	0.210
寄与率 (%)	28.539	12.659	6.975	
累積寄与率 (%)	28.539	41.198	48.173	
Cronbach の α 係数	0.809	0.856	0.601	
因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 KMO = 0.833				

4-3-2 自己評価に関する因子分析（表 4-3-2）

育児意識の因子分析と同様に、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の自己評価に関する 15 項目の因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った。その結果、表 4-3-2 に示すように、3つの因子を抽出することができた。第1因子は「感情コントロール困難」、第2因子は「孤立感・不信感」、第3因子は「身体的暴力」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。

なお、下位尺度得点を算出するにあたっては、1位「全くない」に1点、2位「年に1, 2回ある」に2点、3位「月に1, 2回ある」に3点、4位「週に1, 2回ある」に4点、5位「ほとんど毎日」に5点を付加し、得点が高くなるほど自己評価が否定的になるように調整を行った。

表 4-3-2 自己評価に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	感情コントロール困難	孤立感・不信感	身体的暴力	
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	0.888	-0.011	-0.028	0.755
II-1 1つい、子どもに怒鳴っている	0.884	-0.044	-0.035	0.723
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	0.883	0.047	-0.023	0.788
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	0.786	-0.022	0.019	0.623
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	0.523	0.031	0.144	0.394
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	-0.039	0.790	0.016	0.610
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	-0.005	0.780	0.020	0.615
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	0.081	0.716	-0.043	0.541
II-2 自分の人生は辛いことが多いと思うことがある	-0.065	0.714	0.018	0.486
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	0.027	0.694	0.002	0.615
II-15 子どもを足蹴りする。	-0.064	-0.043	0.862	0.668
II-14 子どもにげんこつで殴る	-0.052	-0.002	0.679	0.423
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	0.202	0.013	0.607	0.552
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	0.128	0.038	0.413	0.260
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	-0.010	0.036	0.344	0.123
寄与率 (%)	33.117	13.572	7.035	
累積寄与率 (%)	33.117	46.689	53.724	
Cronbach の α 係数	0.897	0.858	0.741	
因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 KMO = 0.881				

4-4 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4, 図 4-4-1, 図 4-4-2)

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果を検討するために、育児意識の3因子の下位尺度得点と自己評価の3因子の下位尺度得点について、プログラム実施前後の各因子の下位尺度得点に有意差があるかどうかを明らかにするために、ウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。

表 4-4, 図 4-4-1 と図 4-4-2 からわかるように、いずれもプログラム実施後の下位尺度得点は、プログラム実施前の下位尺度得点より 0.1%の危険率で有意に低くなっていた。

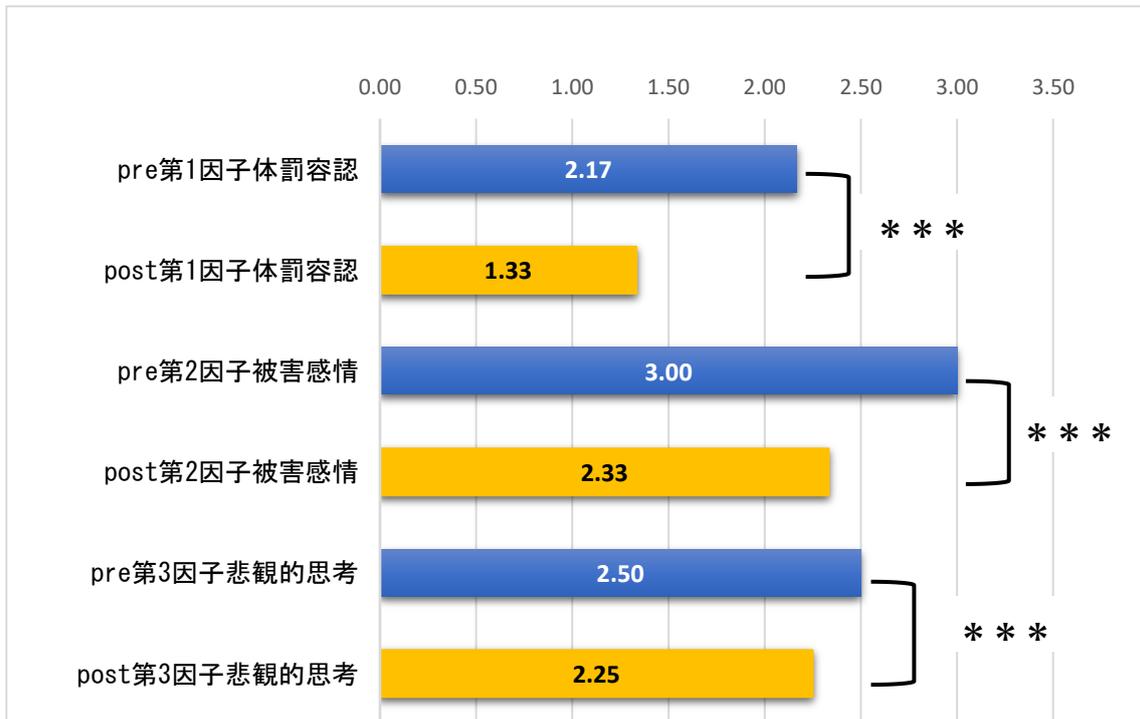
この結果から、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加することによって、体罰容認、被害感情、悲観的思考などの育児意識は軽減され、また、感情コントロール困難、孤立感・不信感、身体虐待などの自己評価も軽減されることが明らかになった。

表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

		プレ・ ポスト	人数	平均値 (順位)	中央値	Z	漸近有意 確率 (両側)
育児 意識	第1因子体罰容認	プレ	785	2.19	2.17	-20.119 ^b	0.000
		ポスト	802	1.54	1.33		
	第2因子被害感情	プレ	803	2.85	3.00	-16.207 ^b	0.000
		ポスト	803	2.30	2.33		
	第3因子悲観的思考	プレ	798	2.54	2.50	-13.195 ^b	0.000
		ポスト	801	2.26	2.25		
自己 評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	794	3.76	4.00	-20.297 ^b	0.000
		ポスト	802	2.69	2.80		
	第2因子孤立感・不信感	プレ	793	3.01	3.00	-12.505 ^b	0.000
		ポスト	794	2.60	2.40		
	第3因子身体的暴力	プレ	802	1.81	1.60	-16.788 ^b	0.000
		ポスト	792	1.42	1.20		

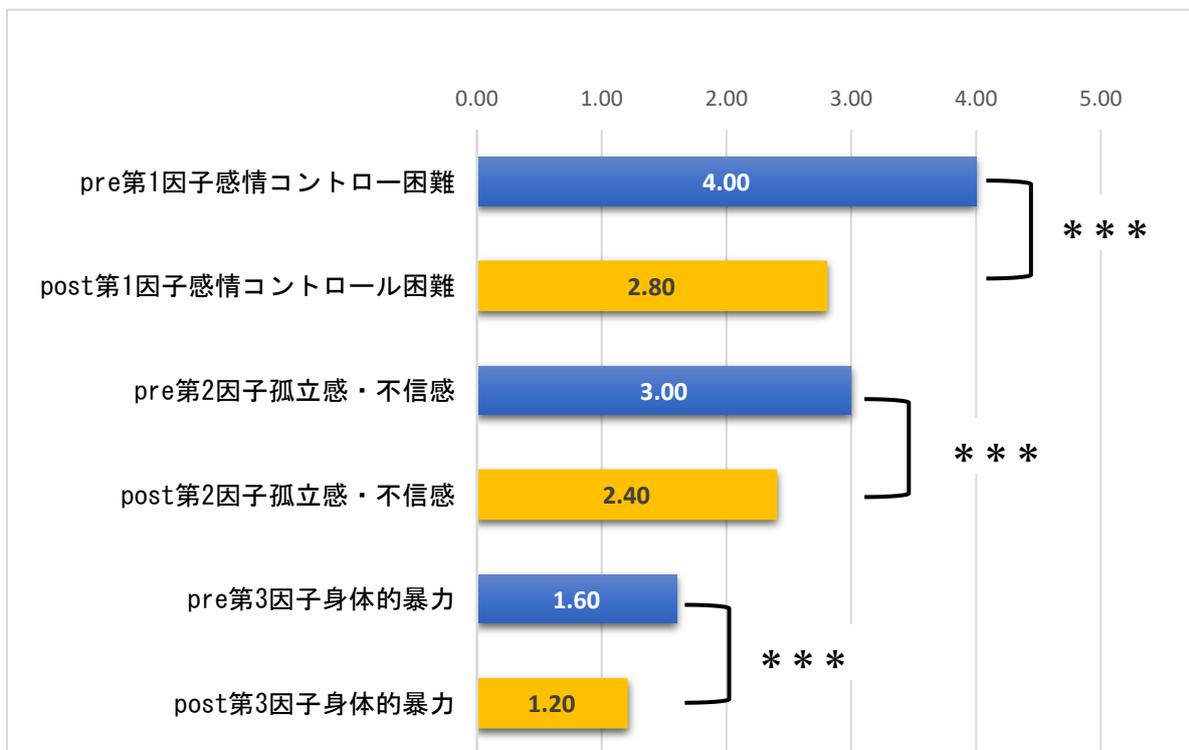
注) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく

図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) *** : $p < .001$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) *** : $p < .001$

5. 結論

分析の結果、以下の4点が明らかになった。

①子育て状況については項目4「子どもの健診は受けている」を除く9項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

②育児意識については、すべての項目についてポストの方が有意に順位（1位：はい、2位：どちらかといえばはい、3位：どちらかといえばいいえ、4位：いいえ）が低くなっていた。ただし逆転項目7, 10, 13は高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって育児意識が肯定的に変化したことが明らかになった。

③自己評価については、すべての項目（15項目）についてポストの方が有意に順位（1位：全くない、2位：年に1,2回ある、3位：月に1,2回ある、4位：週に1,2回ある、5位：ほとんど毎日）が高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって自己評価が肯定的に変化したことが明らかになった。

④育児意識と自己評価に関する項目を因子分析した結果、育児意識については「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子が抽出された。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。すべての因子の下位尺度得点についてポストの方が有意に低くなっていたことから、肯定的に変化したといえる。

以上のことから、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果が明らかになった。

(2023.8.12 八重樫牧子記)